ウェブ版はこちら。最新のデータとレーティングはウェブ版が優先されます
alphascope.cc/ja/reports/2026-09-25-ko

2026-09-25 終値時点 · 2026年第2四半期までの決算（2026-07-03終了、10-Qは2026-07-29提出）

コカ・コーラ KO

コカ・コーラ：第2四半期のオーガニック成長率6%、約140億ドルのIRS移転価格訴訟が主な下振れリスク

事業は堅調で、改善傾向にある。第2四半期の売上高は$13.4B（+6.7%、オーガニック成長率6%）、ユニットケース販売数量は+5%、比較可能ベースの営業利益率は35.6%（前年同期34.7%）に達し、会社は通期ガイダンスを上方修正した。株価は1年で+36.6%と同業で最も上昇し、今期予想PERは26.6xと同業中央値を約34%上回る。開示資料の精査で最も重要な発見は、原文にのみ記載されている。IRSとの移転価格税務訴訟で敗訴すれば、支払済みの預託金$6.0Bは返還されず、2010–2025年度分として約$14Bの税額と利息を追加で負担する可能性があり、以後の実効税率も毎年約3.8ポイント上昇する。これに対し、会社の引当金は$529Mにとどまる。第11巡回区控訴裁判所は6月25日に口頭弁論を開いたが、判決は未了である。また、yfinanceの営業利益は商標の減損などの費用を加算しており、フリーキャッシュフローも大幅に過小評価されている。

レーティング · 12カ月 · 対 S&P 500	株価	時価総額	1年騰落率	今期予想PER
買い 2026-10-01 確定 · レーティングの定義	$87.81 2026-09-25 終値	$377.8B Consumer Defensive	+36.6% 年初来 +28.0%	26.6x EPS 3.30（アナリスト平均）
次回決算 2026-10-20 yfinance カレンダー				

01

相場環境

指数：2026-09-25時点で、S&P 500は年初来+13.1%、ナスダックは+16.5%である。直近1カ月ではダウが-3.1%、ラッセル2000が-5.6%となり、上昇は大型ハイテク株に集中している。

セクター：生活必需品ETF（XLP）は年初来+7.7%、1カ月では-4.3%である。同社株は年初来+28.0%とセクターおよびS&P 500を大きく上回り、1年では+36.6%である。

金利とドル：米10年債利回りは5.18%で、1カ月で約52bp上昇した。ドル指数は1カ月で+1.8。FRBは9月16日に25bpの利上げを実施した。

同社株への影響（推測）：① 同社株は同業比でバリュエーションが高く、金利上昇が続けば評価の重石となる。② コカ・コーラは利益の大半を海外で計上しており、ドル高はガイダンスに織り込まれた売上高約1%、EPS約3%の為替の追い風を縮小させる。③ S&P 500との1年相関係数は-0.16で、ディフェンシブ性が明確であり、相場の変動局面では相対的に底堅い。

指数とセクター

	直近	1週間	1カ月	3カ月	年初来	1年
S&P 500	7,743.41	+1.2%	+0.9%	+5.3%	+13.1%	+17.2%
ナスダック総合	27,068.72	+2.1%	+3.6%	+7.0%	+16.5%	+20.9%
ダウ工業株30種	51,828.62	+0.3%	-3.1%	-0.1%	+7.8%	+12.8%
ラッセル2000	2,837.55	-0.8%	-5.6%	-5.7%	+14.3%	+17.7%
Consumer Defensive セクター ETF	82.06	-0.2%	-4.3%	-2.5%	+7.7%	+8.4%
KO	**87.81**	**-0.5%**	**-1.9%**	**+6.9%**	**+28.0%**	**+36.6%**

金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

VIX 恐怖指数 14.87 1カ月 -0.34	米10年債利回り 5.18% 1カ月 +52bp	ドル指数 100.97 1カ月 +1.80	対 S&P ベータ -0.24 1年相関係数 -0.16	3カ月の超過リターン +1.6% 対 S&P 500
1年の超過リターン +19.4% 対 S&P 500				

マクロと市場の出来事

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-16	FRBが25bp利上げし、政策金利を3.75%–4.00%に。ドットプロットは年内あと1回の利上げを示唆	無リスク金利の上昇は、PERの高いディフェンシブ株のバリュエーションを下押しする。配当利回り2.4%はすでに米10年債利回りを大きく下回っている（推測）。	CNBC
2026-09 中旬	米10年債利回りが2007年以来の高水準に上昇し、ドルも同時に上昇	ドル高により、海外売上高のドル換算額が目減りする。会社の7月のガイダンスは当時の為替レートを前提とし、EPSで約3%の為替の追い風を含む。ドル高が続けば、この追い風は縮小する（推測）。	CNBC

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-09	米国とイランの衝突が激化し、原油価格が1バレル$100を突破	エネルギー価格の上昇は、PETボトル、輸送、ボトリングのコストを押し上げる（推測）。第2四半期のプレスリリースでも、「投入コストの上昇」が利益率の改善を一部相殺したと言及されている（8-K、2026-07-28）。	AP / The Columbian

02

イベント

2026-07-29

好材料 レーティング

決算発表後、少なくとも8社が目標株価を引き上げ

Jefferies $95 → $104、TD Cowen $90 → $100、RBC $87 → $96、JPMorgan $90 → $96、Piper Sandler $88 → $95、Wells Fargo $90 → $95など。レーティングはいずれも据え置きである（yfinanceのレーティングデータ）。

出典：yfinance 评级变动

2026-07-28

好材料 決算

第2四半期は市場予想を上回り、通期ガイダンスを上方修正

売上高は前年同期比+7%、オーガニック成長率は6%、ユニットケース販売数量は+5%（インド、中国、米国、ブラジルが牽引）。GAAPベースのEPSは$1.03（+16%）、比較可能EPSは$0.97（+11%）で、コンセンサスを4.1%上回った（yfinance）。通期ガイダンスも上方修正され、オーガニック売上高成長率は4–5%から約5%へ、比較可能EPS成長率は8–9%から9–10%へ引き上げられ、フリーキャッシュフローは約$12.4Bとされた（8-K、2026-07-28）。懸念点として、アジア太平洋の価格/ミックスは-9%となり、インドでは市場シェアが低下した。

出典：8-K item 2.02（2026-07-28）

2026-07-16

中立 8-K

fairlifeがランサムウェア攻撃を受け、米国工場が一時操業停止

8-Kによれば、攻撃者は一部のシステムに侵入し、一部のデータを取得した。米国の生産ラインは停止したが、カナダは影響を受けていない。10-Q（7月29日）の続報では、生産ラインの大半が再稼働しており、会社は財政状態に重要な影響は生じておらず、今後生じる合理的な可能性も低いとしている。

出典：8-K item 8.01（2026-07-16）；10-Q（2026-07-29）

2026-06-25

未確定 8-K

北米部門プレジデントのJennifer Mann氏が退任、CFOが暫定的に兼務

Mann氏は7月31日に退任し、2027年4月まで上級顧問を務める。社長兼CFOのJohn Murphy氏が8月1日から北米事業を暫定的に統括している（8-K）。北米は第2四半期に比較可能営業利益の伸びが最も大きかった地域（+12%）であり、後任は未定である。

出典：8-K item 5.02（2026-06-25）

2026-06-25

未確定 会社発表

IRS税務訴訟、第11巡回区控訴裁で口頭弁論。判決は未了

同社株にとって最大の単一リスクであり、詳細は決算書チェックの項に記載する。口頭弁論に対する報道の評価は分かれている。Bloomberg Taxは判事が「コカ・コーラ寄り」とみる一方、Law360は判事がコカ・コーラの主張の一部に疑問を呈したと報じた。判決時期は不明で、結果は二者択一である。勝訴すれば預託金$6.0Bと利息を回収できる一方、敗訴すれば約$14Bの追加負債と実効税率の上昇に直面する（推測した影響の経路は決算書チェックの項を参照）。

出典：10-Q（2026-07-29）；Bloomberg Tax；Law360

2026 Q3 末–Q4

中立 会社発表

アフリカのボトリング事業をCCHBCに売却、年内完了の見通し

2025年10月に契約を締結し、完了後は連結対象外となる。CCHBCは6年以内に残り25%を取得するオプションも保有する。同社は2025年に同事業について$1,274Mの減損を計上した（その他収益に計上）。売却後は売上高が減少し、アナリストが2027年の売上高をほぼ横ばい（+0.3%）と予想する一因となっている。会社は通期の比較可能EPSへの押し下げ影響を約1%と見込む（8-K、2026-07-28）。

赤は好材料、緑は悪材料（中国式の配色）。灰色は中立、青はまだ判断できないもの。

過去90日のアナリスト評価の変更（12件、直近12件を表示）

日付	機関	動き	評価	目標株価
2026-07-30	Argus Research	main	Buy → Buy	91 → 97
2026-07-30	Barclays	main	Overweight → Overweight	91 → 93
2026-07-29	JP Morgan	main	Overweight → Overweight	90 → 96
2026-07-29	TD Cowen	main	Buy → Buy	90 → 100
2026-07-29	Piper Sandler	main	Overweight → Overweight	88 → 95
2026-07-29	Wells Fargo	main	Overweight → Overweight	90 → 95
2026-07-29	RBC Capital	main	Outperform → Outperform	87 → 96
2026-07-29	Jefferies	main	Buy → Buy	95 → 104
2026-07-21	Barclays	main	Overweight → Overweight	89 → 91
2026-07-16	UBS	main	Buy → Buy	92 → 98
2026-07-14	Citigroup	main	Buy → Buy	91 → 97
2026-07-10	B of A Securities	main	Buy → Buy	90 → 95

yfinance の集計で、個別には検証していません。up 引き上げ、down 引き下げ、main 据え置き、init 新規、reit 再表明。

03

レーティングとスコアカード

当社のレーティング

買い 今後12カ月のトータルリターンが S&P 500 を10〜20ポイント上回ると予想 · スコアカード加重点 3.05

発行者のレーティング：買い。ルールに基づく推奨（中立、スコアカード加重スコア 3.05）より1段階上である。

ルールはバリュエーションを1点と評価した。今期予想PERは26.6倍で、同業中央値に対して約34%のプレミアムがある。ただし、このプレミアムはファンダメンタルズによって裏付けられていると判断する。

成長は値上げではなく数量が牽引している。 単位ケース販売数量は+5%、オーガニック成長率は6%、比較可能ベースの営業利益率は35.6%（前年同期34.7%）に上昇し、会社は通期見通しを上方修正した。

キャッシュ創出力の安定性は同業上位である。 営業利益率34.9%は同業最高で、負債は減少している。1年の最大ドローダウンは-7.9%にとどまり、S&P500との1年相関係数は-0.16で、相場変動局面でも相対的に底堅い。

主要リスクは開示されている。 IRSとの移転価格訴訟で敗訴すれば、約140億ドルの追加税額と利息を負担し、実効税率は毎年約3.8ポイント上昇する。判決は未了である。勝訴すれば約65億ドルの預託金と利息が返還され、最大の下振れリスクが解消する。

レーティング変更の条件： IRS訴訟での敗訴、数量成長の明確な鈍化、または成長加速を伴わないままバリュエーション・プレミアムが一段と拡大した場合は、いずれも格下げの要因となる。

レーティングは公開情報にもとづくリサーチ上の見解で、特定の個人の資産状況を前提にしたものではありません。ルールと分布は レーティングの定義

ファンダメンタルズ	バリュエーション	モメンタム	決算の質	リスク
4 / 5	1 / 5	4 / 5	4 / 5	3 / 5

リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示します。5項目の加重点から推奨レーティングを出し、発行者が確認して確定します。

この点数の理由

ファンダメンタルズ
4 / 5

売上高成長率6.7%（オーガニック6%）は3点の区分に該当する。比較可能営業利益率は前年同期比0.9ポイント改善（35.6%対34.7%）しており、ルールに従い1点を加点した。値上げのみならず販売数量の伸び（+5%）が成長を牽引し、通期ガイダンスも上方修正された。5点としなかったのは、成長率が10%に届かず、アジア太平洋の価格/ミックスがマイナスであるためである。

第2四半期売上高+6.7%、オーガニック+6%、販売数量+5%。比較可能営業利益率35.6%（前年同期34.7%）

バリュエーション
1 / 5

今期予想PERは26.6xで、同業中央値19.8xを約34%上回り、2点の区分に該当する。PEGは約3.9（26.6 ÷ 2027年EPS予想成長率6.8%）で2.5を超えるため、ルールに従い1段階引き下げた。2026年の約10%のEPS成長率で計算しても、PEGは約2.7である。コカ・コーラは従来からバリュエーション・プレミアムを享受してきた（営業利益率34.9%は同業最高）が、現在のプレミアムは成長の加速ではなく、主として過去1年の株価上昇によるものである。

今期予想PER 26.6x、同業中央値19.8x。PEG約3.9

モメンタム
4 / 5

大半の期間で市場を上回っている。1年で+19.4ポイント、年初来で+14.9、3カ月で+1.6であり、下回っているのは6カ月（4.2ポイント）のみである。株価は200日移動平均を10.4%上回り、50日移動平均とほぼ同水準、1年高値からは-4.0%で、1年の最大ドローダウンは-7.9%にとどまる。

超過リターン 1年+19.4%、年初来+14.9%、6カ月-4.2%

決算の質
4 / 5

主要指標は健全である。TTMのフリーキャッシュフロー/純利益は約1.0（推定）、売上債権回転日数は約25日（推定）である。比較可能ベースの定義に変更はなく、一時的な利益（第2四半期の有価証券関連利益$320M）と費用の双方を除外しており、処理は対称的である。1点減点したのは、買収資産の減損が繰り返されているためである。BodyArmorの商標は2024年に$760M、2025年にさらに$960Mを減損し、2024年にはfairlifeの条件付対価を$3.1B再評価した（10-K）。いずれも比較可能ベースでは除外されているが、過去の買収が価値を毀損し続けていることを示す。また、売掛債権ファクタリングとサプライチェーン・ファイナンス（確認済み$1.43B）により、売掛金と買掛金の回転指標は実態より良好に表れる。減点対象とはしないが、留意すべき点である。

BodyArmor減損 $760M + $960M。TTMのFCF約$14.3B対純利益$14.3B（推定）

リスク
3 / 5

5点から2点を減点しており、いずれもIRS税務訴訟によるものである（10-Q、2026-07-29）。① 偶発債務の規模が大きい。支払済み預託金$6.0B + 未収利息$514M + 2010–2025年度分の潜在的な追加額約$14Bで、合計約$20.5Bとなる。時価総額（$377.8B）の約5.4%に相当し5%の基準を超えるが、引当金は$529Mにとどまる。② 判決が未了である。敗訴すれば実効税率が毎年約3.8ポイント上昇し（2026年上半期にも潜在負債が約$0.9B増加）、将来の各期の利益に影響する。その他の項目は減点なしである。1年ボラティリティは18.8%、最大ドローダウンは-7.9%。保証債務$874Mは小規模で、負債構成も健全であり、長期債務は$42.1Bから$37.0Bに減少し、CP残高はゼロである。

潜在的な税務負債 約$20.5B = 時価総額の5.4%。引当金$529M。敗訴時の実効税率 +3.8pp

ウォール街の見方

評価の分布（24社）



強い買い 7　買い 12　保有 4　売り 0　強い売り 1

目標株価のレンジ



yfinance の集計、アナリスト23人、更新時期は不明。分布を示すだけで、目標株価を裏づけるものではありません。

04

決算を読み解く

四半期業績

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後EPS	営業CF	フリーCF
2025-06-27	$12.5B	+12.6%	+1.4%	62.4%	34.1%	$3.8B	0.88	$3.8B	$3.4B
2025-09-26	$12.5B	-0.6%	+5.1%	61.5%	32.0%	$3.7B	0.86	$5.0B	$4.6B
2025-12-31	$11.8B	-5.1%	+2.4%	60.0%	15.6%	$2.3B	–	$3.8B	$2.9B
2026-04-03	$12.5B	+5.5%	+12.1%	63.0%	35.0%	$3.9B	0.91	$2.0B	$1.8B
2026-07-03	$13.4B	+7.3%	+6.7%	62.9%	34.9%	$4.4B	1.03	$5.5B	$5.1B

出典：SEC XBRL（2026-07-03 季度数据取自 10-Q/8-K 原文（2026-07-28/29），companyfacts API 截至 2026-09-27 尚未收录该 10-Q）。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー－設備投資。第4四半期の EPS は XBRL に欠けることが多く、会社発表の数字を優先します。

バリュエーション

基準	EPS	PER
GAAP、直近12カ月	3.33	26.4x
調整後、直近12カ月（アナリスト基準）	3.23	27.2x
今期予想（0y）	3.30	26.6x
来期予想（+1y）	3.53	24.9x

2026年のEPS予想は$3.25–$3.34、2027年は$3.40–$3.60で、予想のばらつきは小さい。会社の通期の比較可能EPS成長率ガイダンスは9–10%で、うち約3ポイントは為替要因である。配当は四半期$0.53、配当利回りは約2.4%である。なお、今期予想は調整後EPSである。IRS訴訟で敗訴すれば、実効税率の上昇がGAAPベースと調整後の双方のEPSを直接押し下げる（ガイダンスの実効税率19.9%にこの影響が含まれていないことは、8-Kの脚注に明記されている）。

現在の株価で計算。予想 EPS は yfinance が集計したアナリスト平均で、調整後ベースです。

決算書が語っていること

売上高、純利益、GAAPベースのEPS、営業キャッシュフロー、売掛金、棚卸資産は、XBRLと四半期ごとに照合し、一致を確認した。相違点と留意点は以下のとおりである。

第2四半期の数値はXBRLではなく原文に基づく：2026-09-27時点で、SECのcompanyfacts APIには7月29日提出の第2四半期10-Qが未反映である。このため四半期表の2026-07-03の列は、10-Qとプレスリリースの原文から手作業で抽出した。売上高 = 上半期$25,852M – 第1四半期$12,472M、営業キャッシュフロー = 上半期$7,543M – 第1四半期$2,021M。

yfinanceの営業利益は「その他の営業費用」を加算している：2025年のGAAP営業利益は$13.76Bであるのに対し、yfinanceは$14.91Bと表示している。2025年第4四半期はGAAPで$1.84B（営業利益率15.6%）、yfinanceは$2.86B（24.2%）である。差額の主因はBodyArmor商標の減損$960Mである。2024年は差がさらに大きく（GAAP $9.99B対

yfinance $14.02B）、主因はfairlifeの条件付対価の再評価$3.1Bである（10-K、2026-02-20）。

年間の営業キャッシュフローは2件の一時的な支払いにより押し下げられている：2024年にIRS税務訴訟の預託金$6.0B（2024-09）、2025年3月にfairlifeの条件付対価$6.17Bを支払った（10-K、10-Q）。したがって、yfinanceの年間フリーキャッシュフロー（2024年$4.7B、2025年$5.3B）は平常水準を示していない。直近4四半期の営業キャッシュフローは$16.3B、設備投資は$2.1Bで、フリーキャッシュフローは約$14.3B（推定）である。

第2四半期のその他収益$370M：主に有価証券の実現・未実現利益$320Mで、ほかにアフリカのボトリング事業の減損戻入れ$66Mがある。これらは比較可能EPSから除外されている（比較可能$0.97 < GAAP $1.03）（10-Q）。

2025年の利益に含まれる主要な特殊項目：CCEP株式の一部売却益$331M、アフリカのボトリング事業の減損$1,274M、ナイジェリアの完成品事業の売却損$393Mで、いずれもその他収益に計上されている（10-K）。

有利子負債は減少：長期債務は$42.1B（2025年末）から$37.0Bに、CPは$1.5Bからゼロに減少した（10-Q）。8.01項や2.03項による社債発行の開示はない。

原資料にしか書かれていないこと

IRSとの移転価格税務訴訟（10-Q、2026-07-29）：

> 2007–2009年度分の税額と利息$6.0Bを支払済み（2024-09-10）で、その他の非流動資産に計上している。ほかに未収利息$514Mがあり、勝訴すれば返還される。
>
> 敗訴した場合、2010–2025年度分の潜在的な追加税額と利息は約**$14B**（2025年末時点）で、2026年上半期にさらに約$0.9B増加した。
>
> 同じ方法が引き続き適用されれば、2026年以降の実効税率は約**3.8ポイント**上昇する。
>
> 現在の引当金は**$529M**にとどまり、会社は「勝訴の可能性の方が高い」と判断している。
>
> 控訴審は2026-06-25に口頭弁論が開かれ、判決は未了である。会社は2025年10月に第8巡回区控訴裁が3M事件で下した有利な判決を、自らの立場の根拠として挙げている。

アフリカのボトリング事業の売却：2026年末までに完了する見通しで、完了後は連結対象外となる。CCHBCは6年以内に残り25%を取得するオプションを保有する（10-Q）。

保証：第三者の債務保証$874M、うち$61MはVIE関連である（10-Q）。

サプライチェーン・ファイナンスと売掛債権ファクタリング：サプライチェーン・ファイナンスで確認済みの買掛金は$1.43B、売掛債権ファクタリングの第2四半期のコストは$14Mである（10-Q）。これらにより、売掛金と買掛金の回転指標は実態より良好に表れる。

fairlifeのランサムウェア事案：生産ラインの大半が再稼働し、会社は影響は重要でないと判断している（10-Q）。

非GAAPの定義：変更なし。

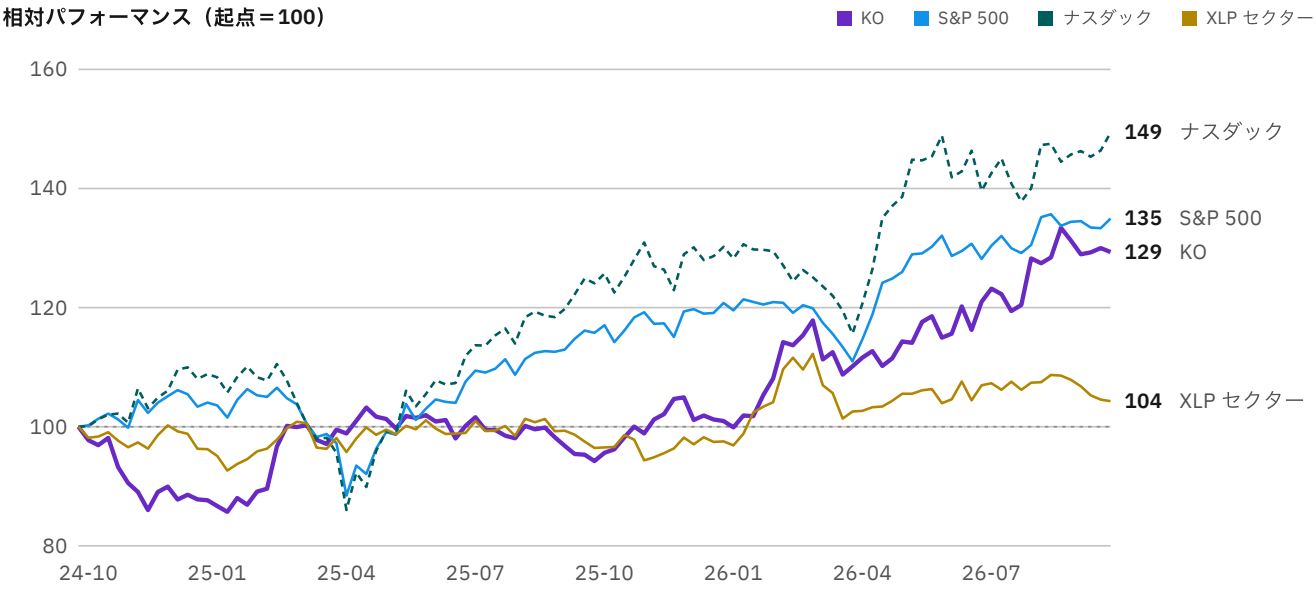
データベンダーの誤り

項目	yfinance	原資料（計算方法つき）
freeCashflow	$5.2B	直近4四半期で約**$14.3B** = 営業キャッシュフロー $16.3B – 設備投資$2.1B（第2四半期は10-Qの上半期数値から第1四半期を差し引いて算出、推定）。yfinanceの数値は2025年通期の$5.3Bに近く、同年にはfairlifeへの一時的な支払い$6.17Bが含まれる
forwardPE	24.9x	**2027年**のEPS $3.53に基づく。今期（2026年）のEPS $3.30で計算すると**26.6x**となる
Operating Income（通期）	2025年$14.91B、2024年$14.02B	GAAPベースでは**$13.76B**、**$9.99B**。yfinanceはその他の営業費用（BodyArmorの減損、fairlifeの再評価など）を加算している（10-K、2026-02-20）
Operating Income（2025年第4四半期）	$2.86B（利益率24.2%）	GAAPベースでは**$1.84B**（利益率15.6%）= 通期 $13.76B – 第1〜第3四半期$11.92B
年間フリーキャッシュフロー	2024年$4.7B、2025年$5.3B	数値自体は正しいが、それぞれIRSへの預託金 $6.0Bとfairlifeの条件付対価$6.17Bという一時的な支払いを含んでおり、平常水準を示すものではない
dividendYield	2.41	パーセント表示であり、2.41%を意味する（四半期$0.53）

05

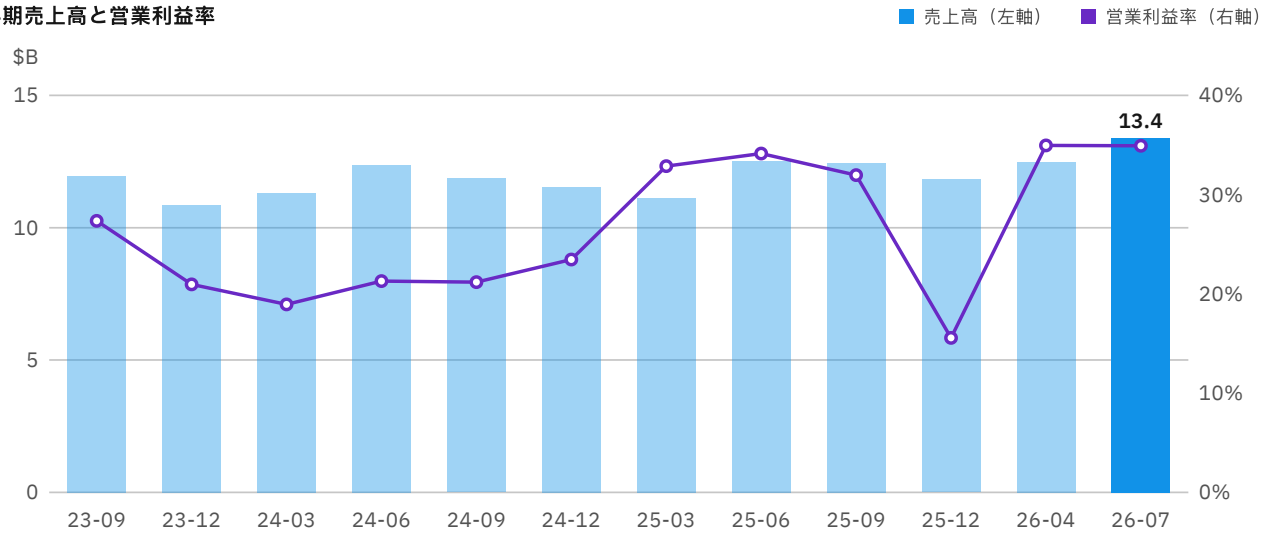
株価の推移

相対パフォーマンス（起点＝100）



週次終値（調整後）、2024-09-29 を100として指数化。右端の数字は期末の値です。

四半期売上高と営業利益率



直近12四半期。出典：SEC XBRL。

06

同業比較

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER 実績	PER 今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
KO	**Coca-Cola Company (The)**	**$377.8B**	**-1.9%**	**+28.0%**	**+36.6%**	**26.4x**	**26.6x**	**+6.7%**	**61.9%**	**34.9%**
PEP	Pepsico, Inc.	$175.7B	-8.6%	-7.6%	-4.3%	16.9x	15.0x	+6.4%	54.2%	16.8%
KDP	Keurig Dr Pepper Inc.	$43.5B	-0.8%	+16.9%	+28.3%	32.3x	13.9x	+75.6%	51.0%	12.9%
MNST	Monster Beverage Corporation	$84.5B	-9.8%	+12.5%	+33.5%	39.9x	37.5x	+20.2%	55.5%	29.2%
PG	Procter & Gamble Company (Th	$339.6B	+0.8%	+4.3%	-1.1%	22.1x	21.0x	+1.5%	50.9%	22.1%
MDLZ	Mondelez International, Inc.	$76.9B	-4.4%	+13.8%	-0.3%	22.1x	19.8x	+4.1%	31.1%	22.0%
同業中央値		*$84.5B*	*-4.4%*	*+12.5%*	*-0.3%*	*22.1x*	*19.8x*	*+6.4%*	*51.0%*	*22.0%*

yfinance の集計で、決算書とは照合していません。今期PER＝株価÷今期（0y）予想 EPS。forwardPE が来期ベースになる問題を避けています。同業の出典：--peers。中央値は本銘柄を除きます。

比較対象は飲料・生活必需品企業から個別に選定した：PEP、KDP、MNST、PG、MDLZ。同社株の今期予想PERは26.6xで、これを上回るのはMNST（37.5x）のみであり、同業中央値19.8xを約34%上回る。営業利益率34.9%は同業で最も高く、原液販売とフランチャイズ・ボトラーを組み合わせたアセットライト型モデルによるものである。売上高成長率6.7%は同業中央値6.4%と同程度である。1年の株価上昇率+36.6%は同業で最も高く、最大の競合であるPEPは1年で-4.3%、PERは15.0xにとどまり、両社のバリュエーション格差は大きい水準にある。なお、KDPの売上高+75.6%はJDE Peet'sの買収によるもので、PERと成長率は比較できない。同業データはyfinanceの集計値であり、各社の決算書とは個別に照合していない。

07

スマートマネー

誰が持ち、誰が売買しているか：追跡している人物のうち 4 人が KO を保有

人物	データ	報告期間	評価額 / レンジ	ポートフォリオ比率	四半期の変化
ウォーレン・バフェット	13F 保有	2026-06-30	$32.5B	10.9%	据え置き
レイ・ダリオ	13F 保有	2026-06-30	$18M	0.1%	買い増し
ジョージ・ソロス	13F 保有	2026-06-30	$12M	0.2%	据え置き
ルネサンス・テクノロジーズ	13F 保有	2026-06-30	$343,031	0.0%	一部売却

各人物の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産開示から。13F には約45日の遅れがあります。 スマートマネー →

08

この先の注目点

2026-10-01

四半期配当$0.53の支払い

権利落ち日（9月15日）は経過済みである（yfinanceのカレンダー）。

2026 年 10 月下旬

次回FOMC

金利とドルの動向。正確な日程はFRBの公表スケジュールによる。

2026-10-20

2026年第3四半期決算

コンセンサスはEPS $0.88、売上高$12.89B（yfinance）。会社は第3四半期について、比較可能売上高で約1%の為替の追い風と約1%の買収・事業売却による押し下げ、比較可能EPSで約3%の為替の追い風を示している。注目点は、販売数量+5%の持続性、アジア太平洋の価格/ミックス、北米の新プレジデント人事、ドル高が為替の追い風に与える影響である。

2026 年底前

アフリカのボトリング事業の売却完了

完了後は売上高の基準が低下し、2027年の売上高予想はほぼ横ばいである。売却損益の会計処理に注目する。

待定

IRS税務訴訟に対する第11巡回区控訴裁の判決

同社株にとって最大の単一変数である。勝訴すれば預託金$6.0Bと利息を回収でき、敗訴すれば約$14Bの追加負債と毎年約3.8ポイントの実効税率上昇に直面する。

リサーチ上の記録であり、投資助言ではありません。

出典

株価・アナリストデータ：yfinance + SEC EDGAR、2026-09-25 終値時点、遅延あり。財務データ：SEC EDGAR（XBRL と原資料）。マクロとニュースは各項目のリンク先を参照。赤が上昇、緑が下落。

ウェブ検索：Bloomberg Tax：控訴審の口頭弁論、Law360：判事がコカ・コーラの主張に疑問、Tax Notes、CNBC：FRBの政策決定、CNBC：9月17日の市場、AP/The Columbian：原油価格。

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/2026-09-25-ko · 2026-10-01 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。